許されない事だけど。

妹明

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
許されない事だけど。

【Ｎコード】
Ｎ７４９７Ｊ

【作者名】
妹明

【あらすじ】
罪を犯した恋人と共に逃走する少年の哀れな物語。

永久に続く時の中で、僕たちは一瞬だけ、
その手を離してしまったんだ……。

「時勇（ジユウ）平気？」
「平気、平気！　これ位いつもの事さ」
「……ごめんね。私がもっと強かったら。時勇に迷惑かけないで済むのにね」
「利紀（トキ）が気にする事じゃないよ」
僕らは逃亡者。利紀はやってはいけない罪を犯した。
人を……殺した。
　元・国の姫だった利紀は、ある日自分を殺そうとした男を逆に殺してしまった。
よく言えば、自己防衛だが……結局は、過度な自己防衛に値する。
どっちにしようがな。
それを見てしまった恋人の僕は、とっさに思いついた。
この国から、逃亡しようと。僕の……隣の国に逃げれば、きっと助かる。
僕らの国は仲が限りなく悪いから、追手も来やしないだろう。と。
　利紀はその案に乗った。逃げれるのなら、もう何でもいいと思ったのであろう。
「時勇。後、３キロを走り抜ければ……私達は一生幸せになれるの？」
「うん。きっと、幸せになれるよ」
「……ごめんなさい。貴方は、何もしてないのに」
「大丈夫だから。僕は君の傍に居るよ。何があっても」
そう言って、利紀の手を軽く握った。それに対して利紀は、強く……強く僕の手を握り返してきた。不安だったのか、その顔はどこか

怯えているようにも見えた。
「あと、もう少しだよ！　頑張ろう」
元気づける為に笑いながら言ったら、「あ、ああ。うん」と、生返事をした後握っていた手が震えだした。
　その時、複数人の兵隊が現れた。
「時勇様と利紀様ですか？」
こいつらは、敵――――　利紀の住んでた城の兵隊だ。
「……ひ、人違いでは？」
「では、そのフードを取っていただきましょうか？」
僕らは、黙ってしまった。このフードを取れば、僕たちだと言う証明になってしまうからだ。その時、利紀が僕にもやっとの思いで聞こえるような声で言った。
「……時勇。どうするの？」
僕も、返答は小声で言った。
「強行突破する。お前は急いで関所の門へ！」
利紀は無言でうなずき、2人同時に僕は兵隊に、利紀は関所の方へそれぞれ向かった。その瞬間、手が離れた。
その時、放してしまったこの手をこの後、後悔する。
　数日後。僕は利紀が住んでいた城の処刑台の前に立っていた。
　作戦は、失敗したのだ。
僕らが離れて数百メートル先で、利紀は城の兵隊に捕まった。関所まであと、1キロの所だった。そして、今日は利紀の処刑の日だ。
僕は、戒めに処刑はされないのだ。一生、この罪悪感を背負ってゆくのだ。
　「では、利紀。最後に申す事は、ありますか？」
処刑者が、利紀に聞いた。
すると、利紀は笑って
「時勇。私を自由にしてくれようとして、ありがとう。私は宇宙一、幸せ者ですよ」
と、言った。その顔の頬からは透明な雫が一つ、またひとつと、地

面に向かって規則正しく堕ちて行った。
　それに気づかなかったかのように、処刑者は彼女の首に縄を通した。そして――――――――――――――。
「と……！！」
民衆に見守られながら、利紀は逝った。
決して胸を張って幸せな最期だったとは、言えないような死に方だった。
　でも、僕らが過ごした逃亡の日々は少しだけ、少しだけだけれど幸せだった。
　僕らの許されぬ恋の幸せの代償はあまりにも大きすぎるものであった。

～ｅｎｄ～

（後書き）

はじめまして！妹明（セア）です！
この度は『許されない事だけど。』を読んでいただきありがとうございました。
表現とか、あまりうまくないので分かりにくい点も多いとは思いますが、
そこは皆様の想像力でカバーしていただけるとありがたいです（^^；）
最後に。
これからも、努力していきますので、
情けをかける感じでこれからも読んで頂けると嬉しいです。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7497j/

許されない事だけど。

2011年1月27日11時47分発行